

幸せは 何かを求めて

金融広報中央委員会会長 小畑義治



金融広報中央委員会(愛称「知るぽると」)の四半期広報誌「くらし塾」きんゆう塾」は、お陰様で創刊1周年を迎えることができました。

ご承知の通り、最近では、さまざまなリスクを内包する金融商品が出回る一方で、金融トラブルも増加しています。また、「くらし」や「きんゆう」に関する情報もあふれています。私たちは、生活をしてい

く上で、お金とは切っても切れない関係にありますだけに、生きていくことがますます難しい時代になっていると言えましよう。

このような中で、読者の心の琴線に触れる大切なことをお伝えしたい。そして、幸せは何かを求めてしなやかにたくましく生きていく力が育まれるのに少しでもお役に立ちたい。そのような思いからこの冊子を刊行したところです。

これまで皆さま方からの貴重なご意見もいただき、誌面の充実にご努めてまいりましたが、まだまだヨ

チヨチ歩きの感は否めなと思っております。

創造性は「体験」と「意欲」との掛け算から生まれるとも言われています。

今後とも、私たちを取り巻く環境の変化にマッチした魅力ある誌面作りにより、いろいろな試行錯誤を繰り返しながらも、常に前向きでチャレンジな気持ちを忘れることなく、創意工夫を重ねていきたいと思っております。

読者の皆さま方からの引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

第7回「金融に関する消費者教育フォーラム」を開催

— 関係機関・団体が相互に情報交換 —

去る5月8日(木)、日本銀行本店におきまして、金融に関する消費者教育に携わる機関・団体の方々にご出席いただき、「金融に関する消費者教育フォーラム」を開催しました。

会議では、まず小畑会長より、「金融に関する消費者教育の裾野は大変広く、その内容も複雑化しております。ここにお集まりいただいた皆さまが相互に連携を深めることで、さらに効果的な金融教育を推

進する必要があると存じます。ぜひ、本日の会議を実りある情報交換とネットワーク作りの場としてご活用ください」と、ごあいさつを申し上げます。

次に、恵谷事務局長より金融広報中央委員会の20年度活動方針などについてご説明し、その後に参加者間の広報活動に関する情報や意見交換を行いました。

意見交換では、「金融に関する消

費者教育に興味のない人々にいかに興味を持つてもらうかの工夫が大切」とか、「地域や家庭における金融教育を広めるために、各都道府県金融広報委員会とこの会議の参加団体がもつと連携する必要がある」との意見が出されました。また、「多くの団体が積極的な広報活動を行っていることを知り、今後、参加者相互の連携を一層深めることで、より効果的な広報を展開することができるとの思いを強くした」などの発言もありました。最後に当委員会より、個々の広報活動の輪を一層広げるため参加団体からのさらなる協力をお願いし、フォーラムを閉会しました。

